

ここが問題！！沖縄の米軍基地

危険な普天間基地

普天間基地は宜野湾市にあり、海兵隊のヘリコプターなど約50機が駐留しています。基地が市の中心にあり、面積の25%を占めるため、交通網や公共施設の整備などができず、市の発展は妨げられてきました。また市街地上空での旋回訓練は1日に150回から300回で、早朝・深夜も行われ、市民の生活を苦しめています。04年にはヘリコプターが、基地の隣の大学に墜落する事故も起きました。

辺野古で激しい反対運動

1995年、日米政府はこの基地の閉鎖で合意しました。しかし基地閉鎖は、名護市・辺野古に新しい基地を作ることが条件でした。名護市の住民は頭越しの合意に強く反発し、97年に行われた基地建設を問う住民投票では反対が過半数を占めました。

そこで国は見返りの地域振興策を打ち出し、やがて市長も市議会も基地賛成になってしまいました。そうした中でも住民は、工事を行おうとする国や業者に対して、体を張って抵抗しました。その結果、05年には辺野古での新基地建設は一旦白紙に戻ったのです。

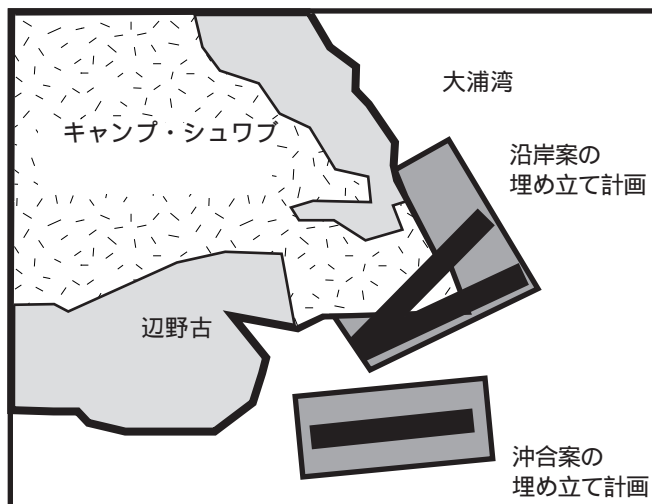
ところがその直後、日米政府は普天間基地の辺野古移設を加速化する新しい合意を結びました。沖縄県民の反発はさらに大きくなり、昨年の県議会選挙と今年の衆議院選挙では新基地建設反対の候補者が勝ったのです。

「基地はいらない」という県民の意思は明確です。

定まらない国の計画

辺野古は沖縄本島東海岸にある小さな漁村です。沖合にはサンゴを始め希少生物が生存し、絶滅危惧種のジュゴンが確認されています。開発の進んだ沖縄本島の中では自然が残る貴重な地域です。

13年前の政府の最初の計画は、辺野古の沖合に浮かぶ基地の建設でした。次に沖合に埋め立て式の基地を建設する計画に変更になりました。その後、キャンプ・シュワブ沿岸をL字に埋め立てる計画に変更し、さらに滑走路をV字型に2本建設する計画に変わりました。また現行案に対して、仲井真弘多県知事は、沖合へ50m移動することを求めています。埋め立て場所と方法によって、東京のゼネコンが全て受注するのか、沖縄の業者も受注できるのか大きく変わることから、利権を巡ってさまざまな動きがあるのです。



なぜ沖縄に海兵隊がいるのか

米国は陸軍・空軍・海軍・海兵隊の4軍を保有しています。陸空海3軍の出撃には連邦議会承認が必要ですが、海兵隊は大統領命令のみで出撃することができます。そのため海兵隊は頻繁に戦地派遣される部隊で、「殴りこみ部隊」というあだ名を持っており、他の3軍より「荒くれ者」が多いといわれています。

沖縄県には、第3海兵遠征軍が駐留しています。海兵隊には3つの遠征軍がありますが、海外配備は第3海兵遠征軍のみで、他の2つは米国本土の駐留です。第3海兵遠征軍の主任務は訓練の実施で、本土の部隊がローテーション派遣されます。沖縄県の北部訓練場は、米軍最大のジャングル戦闘訓練場で、他ではできない訓練が行えます。訓練を終えた部隊は、本土に戻るか他の地域に派遣されます。アフガニスタンやイラクの戦争にも、沖縄の海兵隊が派遣されました。

沖縄に海兵隊がいるのは訓練に便利で、中東や東南アジアなどの不安定地帯に近いからです。日本や沖縄を守っているわけではありません。